「和 牛 改 良 セ ミ ナ ー」を開催しました

（独）家畜改良センター十勝牧場

令和８年１０月１６日、十勝農協連会議室において十勝農業協同組合連合会と（独）家畜改良センター十勝牧場（以下「十勝牧場」という。）の共催により「和牛改良セミナー～ゲノミック評価を活用した今後の和牛改良～」を開催しました。

講師として、ゲノミック評価を含め肉用牛の遺伝的能力評価に深い造詣・経験を持つ宮崎大学の井上教授をお招きし、生産者を指導する立場にある管内ＪＡ担当者、十勝牧場職員等を対象に、ゲノミック評価の基礎から活用方法、今後の展望まで分かりやすく講義いただきました。

当日は、北海道職員の方々も含め約４０名の参加があり、講義終了後は参加者から実際の生産者との利用シーンでの疑問や考え方、留意点などに関する質問も多く出され、活発な質疑応答がされました。
また、「遺伝的能力評価やゲノミック評価の基本的な部分から改めて学ぶことができて有意義だった」、「難しい部分のあったが大変参考になった」といった声が寄せられました。

本セミナーが国内和牛の改良・増殖のための一助となり、もって持続的な肉用牛経営の展開につながることを願っています。

【参考】
現在、国内における肉用牛の改良・増殖において、牛の遺伝的な能力を評価する手法として血縁情報やゲノム情報を活用したゲノミック評価により得られる推定値が用いられるようになっています。

一方、このゲノミック評価については、その特徴や留意点等がまだ十分に理解されているとは言い難いため、令和７年に策定された家畜改良増殖目標においても「ゲノミック評価のメリットや利用上の留意点等について、生産者はもとより、指導する者の理解醸成を進める」こととされています。

こうした状況を踏まえ、十勝牧場では、十勝農協連と協力し、それぞれの職員及び十勝管内で生産者を指導していく農協技術員の方々を対象として標記セミナーを開催した次第です。